

長期留学・海外インターンシップ奨学金 報告書

2024 年 7 月 23 日

国際経営学部国際経営学科 4 年

大山夢月

はじめに

本奨学金の受給にあたり国際経営学部の教授方、事務室の方々、そしてお力添えをいただいたすべての方に感謝いたします。私は、2023 年の 9 月から 2024 年の 6 月の 2 学期間をベルギーの UCLouvain Saint-Louis University で交換留学生として学ぶ機会をいただきました。この報告書ではベルギーのサンルイ大学での 2 学期間を、学習面と生活面に分けて私の留学先での様子を書き記していきます。

留学にあたって

私は幼少期から海外に強い憧れがあり、留学が必須の Global Studies のプログラムがある国際経営学部への進学を決めました。そして、中央大学への進学後、Global Studies のプログラムでオーストラリアへの留学を決めました。しかし、コロナウイルスの蔓延の影響で、オンラインでの留学になってしまいました。オンライン留学後もやはり現地の学生とのコミュニケーションや生活を通じての学びをしたいという留学への思いが根強く残っていました。そのため、交換留学生として海外の大学で学ぶこ

とを決意しました。無事に留学を終え、こうして報告書を作成できていることに感謝しています。

私が UCLouvain Saint-Louis University を交換留学先として選択した理由は 2 つあります。

一つ目が、行ったことのない国に行ってみたかったからです。幼少期から海外への憧れがあったことから、日本の主要な留学先であるアメリカ合衆国やカナダ、オーストラリアなどには訪れたことがありました。そのため、まだ訪れたことのない欧州への留学をすることに決めました。

二つ目は、EU の本部があるブリュッセルでの生活ならば、多文化交流することができると考えたからです。私が海外に興味を持ったのは、旅行で海外を訪れた際に感じる新鮮さからです。未開拓の地で新しい文化や言葉に触れて、まだ知らない世界があることに気づき、もっと知りたい、もっと触れたいと思うことこそが、私が留学を熱望する大きな理由です。さまざまな文化にふれることができる環境での生活は、これまでは知らなかった文化や価値観を学び、私自身の成長に繋げることができると考えていました。そのため、3 カ国語が公用語となり多国籍国家・多文化国家と呼ばれるベルギーのブリュッセルを選択しました。

以上の理由から、英語力の向上に加え、多種多様なバックグラウンドを持つ留学生との交流を通じて海外の文化を学ぶことを目標に掲げ、約 1 年間の交換留学生活を送り

ました。

学習について

ベルギーのブリュッセル首都圏にあるサンルイ（ブリュッセル）大学は、公立の総合大学です。ベルギーは、フランス語・オランダ語・ドイツ語が話されている多言語国家であります。その中でも、私が生活していたブリュッセル首都圏はフランス語圏であったため、フランス語を学ぶ機会が多くありました。ベルギー留学を通して受講した授業は以下の9科目です。

- ・ BERAS3034 English for Erasmus (advanced level)
- ・ BERAS3031 English for Erasmus (intermediate level)
- ・ BGERM1354 English:Corpus-assisted discourse studies
- ・ BFRAN1310 French as a foreign language for exchange students: complete beginner level 1
- ・ BFRAN1322 French as a foreign language for exchange students: elementary level
- ・ BSPOL1312 International relations
- ・ BESPO1165 Political Science
- ・ BECGE1341 Public policy seminar
- ・ BERAS1000 Seminar in international and european organizations

このように、国際経営学部内で学んだことを元に発展的な授業を受講したり、または全く新しい分野の授業を受講したり、私自身の興味関心をもとに2セメスター間を過ごしていました。



←講義型授業の教室

言語については、留学生向けの英語とフランス語の授業を通年受講しました。留学生限定の授業のため、ペアワークが多いこともあり留学生同士で関係性を築きやすかったのも最も参加してよかったなと思った授業です。また、スピーキング重視の学習方法であったため、留学していることを有意に働かせることができたと考えています。

加えて、留学生限定の授業として、「BERAS1000： Seminar in international and european organizations」が挙げられます。この授業では実際に EU で働いている方のお話を聞くことができたり、EU 議会や EU 関連施設への訪問ができたり、この授業ならではの体験をすることができました。私自身、留学前はブリュッセルといえば、EU 本部というイメージがあったため、実際に訪れることができて非常に思い出深い授業

です。具体的には、House of European History と European Parliament を訪れました。



←European Parliament 内の実際の議会の様子

European Parliamentを訪れた際には、業務にあたっている職員の方から仕事内容や現状の課題などを直接質問する機会をいただきました。このような経験は、この授業ならではのと思うので留学生として特別な経験をさせていただけたなと感じています。異なるバックグラウンドを持っている留学生との、国際課題に関するディベートやプレゼンテーションも行いました。それぞれ、異なる意見を持っている学生同士のディベートは、これまでにないほど白熱したものでした。対して、グループワークでは困難もありました。私は、これまで国際経営学部の授業内で留学生とのプレゼンテーションやグループワークなどの経験はありました。しかし、相手の考えや価値観を否定せず、尊重しつつもしっかり私の考え方を伝えることに苦戦しました。英語のスピーキ

ング力の向上だけではなく、多文化なグループの中で、自身の意見をしっかり持ち、それを伝えることに重きをおいて授業に参加をしていました。具体的には否定から入るのではなく、共感できることから話始めること、または一議題につき一度は発言をするなどを自己ルールとして実践していました。

そのほかの授業に関しては、講義型の授業が多かったのですが、国際経営学部では経験できなかった授業として、「BGERM1354： English:Corpus-assisted discourse studies」を紹介したいと思います。この授業はCorpus（特定の言語やその使用状況を研究するために収集された大量の文書や発話の集まりのこと。主に言語学、特に計算言語学や応用言語学の分野で利用される。言語学では特定の目的のために収集されたテキストや音声のデータベースを指す。）について基礎的なことを学び、そこから最終的には自身の興味のあるテーマでリサーチペーパーを完成させるものでした。驚くことに、この受講者は私一人のみだったため、担当教授と1 on 1というなかなか稀な学習環境でした。慣れるまでは緊張しましたが、わからないところは私が納得するまで細かく説明してくださったので、今ではとてもマンツーマン授業でよかったなと感じています。Final research paperのテーマを”Differences between the Animated and Live Action Scripts in Disney's "The Little Mermaid" Movie. (Focusing on the main character Ariel)”とし、リトル・マーメイドの映画を実写化とアニメーションのスク립ト（言葉）の差異をLancsboxという媒体を使用して、自らデータを作り分析をしま

した。自由度の高いテーマでリサーチペーパーを執筆していたため、作業自体は決して簡単ではありませんでしたが、最後まで精力的に執筆することができました。

Corpus linguistics 分野を学ぶのは初めてだったので、難しいと感じることが多くありましたが、教授に褒めていただける機会も多かったため、自身の成長をたくさん感じることができました。

生活面について

私は、前期後期ともに大学が所持している学生寮で生活をしていました。初めての長期留学ということで、シャワートイレ・キッチンが部屋に備わっている完全一人部屋で生活していました。しかし、学生寮ですので、イベントがあったり、快適に生活するための全体ミーティングがあったりと、寮内で生活している学生とコミュニケーションを取る機会は、比較的多かったと感じました。寮内は、約15名の学生が住んでおり、そのほとんどは正規の留学生でした。隣の部屋に住んでいたのは、ルワンダ出身の留学生、そしてフランスやコンゴ出身のルームメイトもいました。特に、フランス語圏出身の友人には、知っている単語を積極的に使ってみたり、先生のように私の拙いフランス語を直してくれたり、フランス語で会話を試みていました。同じ寮に住んでいる学生との交流があったことで比較的孤独も感じず、フランス語の成長にもつながっていたと考えています。大学まで徒歩で約10分のところに寮があるため、授業が

ない日には大学の施設内にある図書館でよく勉強をしていました。大学はブリュッセルの首都圏内にあるため、有名な小便小僧までも徒歩で行くことができます。授業終わりに、友人と食事に行ったり、バーに行ったりすることもでき、とても有意義な放課後を過ごすことができました。



←日替わりで洋服が変わる小便小僧

週末は、別の都市に行ったり、天気の良い時は公園までウォーキングしたりしていました。ヨーロッパ旅行でもなかなか候補に上がらないであろうベルギーですが、幾つも魅力的な都市があるので、アントワープやルーベン、リールなどベルギーの都市を回りました。特に、ベルギーは一つ都市を跨ぐだけで話されている言語が変わります。話されている言語が変わると全く異なる国に行ったような気がするので、不思議な感覚を覚えました。ブリュッセルは他の国へのアクセスもよく、週末にバスや電車で国境を越えることができます。そんな、内陸国でシェンゲン協定が結ばれている国でしか体験できない特徴もたくさん感じることができました。

最後に

この約10ヶ月の留学生活を通じて、語学力はもちろんのこと、何倍も厚みのある人へ成長することができたと感じています。留学を初めてから終了するまで、何度も壁にぶつかることがありました。壁にぶつかっても、留学をしたいと思ったのは自分自身であり、その壁を乗り越えられるのは自分自身しかいません。その壁を壊すなり、飛び越えるなり、その行動一つ一つが、私を厚みのある人へと育ててくれたと思います。留学中は一歩部屋の外に出ると、毎日が刺激的で何かしら新しい発見の連続でした。その新しい発見を、ただ鵜呑みにするのではなく、自分自身の価値観や知識に付け加え、自分の中で噛み砕くことがどれほど大切であるかを身をもって感じました。また、日本の良さや逆にもっとこうあなったらいいな、と日本の外でしか得られない感覚を得ることができました。1年にも満たない短い期間でしたが、この交換留学で出会えた友人や経験は、私の一生の宝物になりました。

最後になりますが、この場をお借りして、留学を通して支えてくださった国際センターや国際経営学部事務室の皆様、どんな時も応援してくれた友人や家族に感謝を述べて、長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金の報告書とさせていただきます。